

## バンガー大学(イギリス)の図書館紹介

田原 博幸(法学部講師)

イギリスにおいて大学は国の機関ではなく、約100校ある総合大学(university)のうち、私立大学は1校のみであり、その他は全て公立大学である。私が2010年9月から客員研究員として所属するバンガー大学(Bangor University)は、ウェールズ大学という連合大学に所属する公立大学である。学長はチャールズ皇太子である。

バンガー大学は、19世紀後半のウェールズ王国における高等教育機関設置運動の高まりにより、農場や炭鉱で働く人々が長い間寄付を集めて、1884年に設立された、ウェールズの中で最も古い大学のひとつである。1826年に建設された世界最古の吊り橋であるメナイ橋と、町の中心部に525年に建てられたイギリス最古のバンガー大聖堂があるバンガー市を見下ろし、対岸のアングルシー島やアイリッシュ海を臨む丘の上にメインキャンパスがある。6つの学部、26の学科に1万人を超える学生と600人以上の教員がおり、世界一の海洋生物学を筆頭に、スポーツ科学、心理学等で世界トップクラスである。

バンガーの町から丘を見上げると、バンガー大学の象徴である主要学術棟(Main Arts)がひととき高くそびえており、この建物の約半分は、主要図書館(Main Library)として使われている。バンガー大学はメインキャンパス、スポーツ科学系学部が集まるキャンパス、医療系学部のあるキャンパスと、大きく3つのキャンパスに分かれているため、図書館は6カ所に設置されている。図書館の中の表示は、バンガーの町中と同じように、現地語のウェールズ語と英語が併記されている。開館時間は図書館によって異なるが、主要図書館は月曜日から木曜日は9時から21時、金曜日は9時から20時、土曜日と日曜日は12時から17時となっており、お国柄がうかがわれる。

主要図書館に3室設けられている閲覧コーナーにはデスクトップパソコンが約10台ずつ設置されており、パソコン利用専用の部屋も2部屋ある。学内ではどこでもWi-Fiが利用可能なので、Wi-Fiを利用できるノートパソコン等があれば、図書館の電子書籍や電子ジャーナルを利用するのに図書館の中になくともよいのは便利である。私が専門とする言語学の書籍はお辞書にも多いとは言えないが、電子書籍で収納スペースの少なさを補いつつある。日本では電子書籍の利用端末が話題になっているようだが、この電子書籍には専用の機器やソフトウェアさえ不要である。大学の構成員としてのIDとパスワードで図書館のネットワークにログインすれば、インターネット・エクスプローラーのような

ブラウザ(インターネット閲覧用ソフト)で読むことができる。電子書籍があれば、貸し出し中で利用できない不便はなく、目次で読みたいページを調べれば、そのページへの移動はピンポイントで可能であるということが利点として挙げられる。しかし、電子書籍は現状では欠点の方が目立つ。画像データでファイルが大きいかからか、パソコンの性能が高くてもページの移動が遅いので、ざっと全体のページを見るという使い方には不便である。検索機能はついているものの、目の前にある語句の検索さえできない。これは電子書籍システムの不備なので、この大学だけの事情ではないのだろう。また、白地の背景に黒の文字というのは、非常に目が疲れやすく、長時間利用しているとかなりつらい。電子書籍を読むシステムには、背景の色を薄茶色など、目が疲れにくい色を好みで調節できるような機能が欲しいところである。日本でも書籍の電子化はこれから本格化するだろうが、図書館にはぜひ紙の本と電子書籍の両方を用意してほしい。



Main Arts



Main Libraryの閲覧室